会　議　録

会議の名称	令和８年度　第２回飯塚市高齢社会対策推進協議会専門委員会
開催日時	令和８年７月 30 日(木)13：56～14：55
開催場所	飯塚市役所 本庁１階多目的ホール
出席委員	岩見委員長、多田副委員長、澤田委員、上田委員、籾井委員、原田(琴)委員、木山委員、田中委員
会議概要	1　開会 2　議題 (1)施策体系案について (2)総論について 3　報告事項 (1)飯塚市高齢者実態調査結果報告追加資料について 4　その他 (1)今後のスケジュールについて ①令和８年度第２回協議会 日時：令和8年8月27日(木)14時 場所：飯塚市役所 1階 多目的ホール ②令和8年度第3回専門委員会 日時：令和8年9月24日(木)14時 場所：飯塚市役所 １階 多目的ホール 5　閉会
会議資料	資料１　　施策体系案について 資料２　　総論について 資料 3-1　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書(追加分) 資料 3-2　居所変更実態調査報告書(追加分)
公開・非公開の別	(1) 公開　　2　一部公開　　3　非公開 (傍聴者０人)
その他(非公開理由等)	

会　議　録

会議内容	① 議題 1：施策体系について 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画(施策体系案)について説明を行う。 (別紙資料 1) ② 議題 2：総論について 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画(総論)について説明を行う。 (別紙資料 2) A委員：1 ページの「計画の概要」の表記の仕方について、西暦(元号)というのが、私は一番見やすいと思う。「計画策定の趣旨」では、「令和 11(2029)年」と西暦が括弧内に収められている。一番下の「本計画と SDGs との関連性」においては、文献等で表記されている「2016(平成 28)年」と表記が違う。本文と参照で表記が違うので、できれば西暦が先、括弧内に元号という、一般的な文献の表記に統一してはどうか。 事務局：表記について統一する。 B委員：資料 2 のデータは、「「団塊の世代」と高齢化」というところで、飯塚市の高齢化率が増えていくが、男女別がどこかで分かるかと思う。どこかで介護するのは女性が多いというようなことが書いてあったので、夫婦世帯、女性が介護するほうが多いので、実際女性のほうが高齢者の中でも比率が多いことが分かるようにするのは、難しいか。 事務局：誰が介護しているかは、介護者のアンケートの設問にあったので、調査結果を提示することはできる。掲載について検討する。 B委員：高齢者の男女別は。 事務局：男女別の数はわかるが掲載について検討する。 B委員：団塊の世代の高齢化は、後期高齢者ではこのくらいとか、前期高齢者ではこのくらいとか、分からないのかと探した。飯塚市はこれだけ比率的に多いというのが分かったらありがたい。 事務局：75 歳以上や 85 歳以上で比較した際に割合として多いのか、上がってきているのかも重要なポイントだと思う。それが近隣と比べて高いのか低いのか、全国、県に比べて高いのか低いのかも重要だと思う。前回の会議で、一部提示したが、加えて検討したい。 C委員：基本目標 6 の 5、介護人材の確保だが、今、介護職員の不足を結構耳にする。以前は、社協主催のヘルパー研修や募集が出ていた

	と思う。市ではそういう研修の募集など、今後ご予定はあるのか。 事務局：介護人材の確保に関しては、今年度飯塚市では、生活援助に携わる介護職員に限定されるが、サービスA従業員を養成する研修を開催予定としており、現在、受講の申し込みを受け付けている。 D委員：介護職員の減少ということで、気になるのは見守りである。地域の活動や福祉について書いている。現状、ケアマネジャー、福祉委員が減少し、成り手がいない。ケアマネ、民生委員、福祉委員がいて見守りをするという前提で、この計画が立てられていると思う。その前の状況を市は把握しているか。ケアマネがいない地域、福祉委員が全くいないところ、探すが成り手がいない。そういったときに、行政側からの反応、応援、福祉委員を育成するような試みなど、そういったものが1つも感じられない。地域に丸投げされているように感じる。それでこのような計画を立てられても、実際に果たしてうまくいくのだろうかという疑問が湧く。もう少し自治会に出向き、福祉委員とかケアマネの見守りの実態を把握されて、より良い計画を立てていただきたい。 事務局：民生委員や自治会の関係部署と情報共有をしながら、見守りの実態の把握に努め、こちらの計画にも盛り込み、高齢者支援課と介護保険課だけでこれを進めるわけではないため、関係各課と協力、連携しながら、成り手不足の地域はどうするか、担当部署と考え、計画に反映したい。 D委員：各々の関係部署にも自治会から多分言われていると思う。市は縦割りではあるが、言われるところは1つで、自治会長に言われる。それだけ自治会長の仕事も増えるし、民生委員、福祉委員の推薦も自治会長に依頼がある。そこで困っているのは、福祉委員の仕事はどういうことかなど、そういった説明がなかなかできない。また、自治会に入っていない人たちもいるわけで、その人たちの身守りはどうするのか、自治会の中でも意見が分かれるところである。福祉委員は今日の今日の成り手の人たちだから、この人たちを育成するとか、見つけるとか、市を挙げてしてもらわないと、各部署から言われても、自治会としては対応できない。そういうことを踏まえ、今後頭に入れて、1つの地域で福祉委員が0であれば、他の地域から福祉委員を持ってくるなど、そういったアイデアを出していただきたいと思う。よく考えて計画をお願いする。 E委員：基本目標6の取り組みの5と6について、「介護現場のDX・生産

	性向上の推進と各種書類の負担軽減」「介護人材の確保と定着と経営の協働化支援」というような取り組みが書かれているが、飯塚市独自の取り組みを何かされるということか。それとも、厚労省などの一般的なことを言われているのか。 事務局：こちらの取り組みで挙げているのは、市独自でする施策もあるが、国・県、特に県ではDX関係の補助金を出しており、そちらと連携することも考えている。介護人材不足や生産性向上の部分も、市として進めていきたいということで、計画として重要だということを挙げていただき、これを市全体で進めていかなければいけないということを、表に出していきたいと考えている。実際に今できている施策は、本当に少ない。先ほどのA研修の部分でしか、今のところできていない。外国人人材の雇用なども今後検討していきたいと思っている。市独自では難しい部分、今回の第10期計画に向けて、介護人材のプラットフォームなど今回は県と連携することになるかと思う。 E委員：職員の負担軽減などをうたっているが、具体的に市独自で何か考えているのか。また、経営の協働化支援も、市が音頭を取ってされることがあるのか。 F委員：関連して、在宅介護に訪問する事業所は本当に少ない。アンケート調査によると非常に深刻な課題となっている。県や関係機関と課題認識を共有しながら、合同就職説明会を開催するとか、資格取得支援の人材確保対策とかをしなければならない。飯塚市独自の事業としても考えていただきたい。 事務局：今回、基本目標として挙げて、取り組みとしてどういうものがあるかを、頭出ししている。次回からの各論の中で、市としてどういう取り組みをしていけば良いか提案したい。 ③ 報告事項1：飯塚市高齢者実態調査結果報告追加資料について 飯塚市高齢者実態調査結果報告追加資料について説明を行う。 （別紙資料3-1、3-2） G委員：前回の委員会で、クロス集計をされたのであれば、それを見える形でと意見を述べた。本日、提供していただきありがたい。クロス集計の数値の信頼度について、クロス集計全体が2,162と226だと、かなり信頼度に違いが出てくる。少なくとも検定値などの客観的な数値を出していただき、この数字が信頼できるかどう

	か、委員会の中で示していただきたい。 事務局：アンケートについてはいろいろな検定手法があるが、一般的には、280 ないしは 380 が、2 択の設問であれば、信頼できる数である。確かに選択肢の数によって、信頼できるアンケートの回収数は、クロス集計で少なくなると、かなり誤差の範囲が増える。このインドア派、内向的の部分については、20 ポイント近く差が出ている項目もある。N 値の回答としても 218 件あるので、十分に信頼できる数だと考えている。数字を持ち合わせておらず、設問ごとに信頼できるN値は変わるため、重点的なクロス集計については、統計的に信頼できるかを検証できるかと思っている。 H委員：10 ページや 11 ページの地域密着型や老健で、退所者が 10 人、99 人、死亡が 0 人ということは、施設内の看取りが 0 だったという認識になるのか。 事務局：こちらはあくまで調査の回答を入力した結果として 0 人ということであり、市全体で 0 人ではない。 H委員：情報を発信するときに、間違ったイメージを持たれると施設が困る。情報の取り扱い、出し方に気を付けられたほうが良いかと思う。 事務局：この場で明確な答えは持ち合わせていないが、国の集計ソフトの結果でその誤差の部分が何か、正確には把握はできていない。1 ページの注釈 1 の中で、不正確な回答や無回答等がある場合には、集計結果として合計が合わない、正確な集計結果となっていない恐れがあると記載あり。何らか無回答などがあり合計が合わないのではないかと推測される。 Ｉ委員：居所変更で「病院・診療所」が結構多いのは分かる。骨折や肺炎などと推測するが、居所変更の理由が分からない。 また、先ほどH委員がおっしゃった、看取りが 0 人とあり、なぜ死亡者がおらず居所変更が多いのか、なぜ看取りがそこではできないのかなどの理由まで分かればよいと思う。公表の仕方は抜粋をするなどあるが、いかがか。 事務局：17 ページに、「居所変更した理由」が挙がっている。かなり数が少なく、1、2 件なので傾向として言えるのかどうかは、はてなマークがつくが、身体介護が必要だとか、認知症だとか、元の施設から居所変更しなければいけなかった理由の集計は出ている。

会　議　録

	④ その他：次回開催日程 ・令和 8 年度第 2 回協議会　　令和 8 年 8 月 27 日(木)14 時から ・令和 8 年度第 3 回専門委員会　令和 8 年 9 月 24 日(木)14 時から